



# Links ニュース NO.3



発行:中川ひろじ後援会 松本市開智 1-6-23 TEL0263-33-1700 FAX0263-33-1280 メール white.otti@gmail.com

## 未来と〜く vol.2 開催されました

2018年11/29（木曜日）ひろじLinks主催、第2回未来と〜く「子どもの貧困」のパネルディスカッション及び、意見交換会を、松本市勤労会館に於いて開催しました。20名以上のご参加をいただきました。

パネラーに、八木航さん（生存を支える会【仮】代表）、佐藤真理子さん（就労コーディネーター）、竹内忍さん（高校教員）の三人をお願いいたしました。遠方からもご参加をいただき皆様のご報告に耳を傾けました。



プラットフォームが一本化されていないゆえに起こる取りこぼし、「学校」という施設での子どもたちその「貧困」問題の取りこぼしなど、「普通」を求めるがゆえに、その枠にはまることのない行動が反社会的＝問題行動にカテゴライズされている状況では、教育の機会格差は広がるばかりであることが現場のお話を聴くとわかります。第一回の未来トークでもお話しいただいた

ように、「個人」を大切にその「個」を受け入れ承認していく機会を奪われてしまう状況があることが状況つまり「社会の貧困」であるということ（八木さん）。また、子どもの貧困は親と子どもの貧困であり、「子どもの貧困」という目線で終わってはいは、貧困のスパイラルを抜け出せる機会を逸してしまう可能性が高い。子どもたちの発するSOSを受けとめられるシステムの導入と共に、福祉と医療と警察。そこをつないでいくのが現在の学校に求められているもう一つの機能であるのでしょうか。しかしながら、見えにくい子どもたちの状況をどのようにとらえ、そして、当事者の助けに応じることがパーソナルサポートであると佐藤さんはおっしゃいます。伴走ができる人材の不足が様々な場所で問題を大きくしてしまっているのではないのでしょうか。

### 中川ひろじの政策

#### 「給食費を無償にし、子育て支援」

格差と貧困が拡大しています。無償のはずの義務教育ですが、給食や修学旅行の積立金、学習教材など多くのお金がかかります。育ち盛りの子どもの給食の無償化を県政で提言します。

多様な相談窓口をネットワークし支援します。

# 未来と〜く vol.3 開催されました

2018年12/10（月曜日）ひろじLinks主催、第3回未来と〜く「障がい者福祉」のパネルディスカッション及び、意見交換会を、松本市勤労会館に於いて開催しました。15名のご参加をいただきました。

日本の障がい者福祉は、「この子らを世の光に」とよびかけた糸賀一雄先生の言葉を指針とし、1950年代から始まりました。2014年には障がい者権利条約が発効され少しずつですが、人々の理解も進んできています。けれど、そもそも「障がい者施設」が隔離されているような場所にあつたりと、なかなか健常者との交流が広がっていかないという現実もあります。今回は、パネラーに、三村仁志さん（長野県社会福祉会会長）、塩野悠子さん（「ひまわり長野」長野県弁護士会高齢者障がい者支援センター運営委員会）に、現場からの問題提起をお願いしました。三村さんからは、国際条約が発効されたにもかかわらず制度も社会の状況も追いついていない状況をご報告いただきました。



塩野さんからは、「成年後見制度」につきまして、その適正な運用に対する理解が広がっていかないという問題提起がありました。成年後見制度に関しては実情を確認し、皆様にお知らせできるようにしたいと考えております。

「世代を超えた地域」をつくるうえで、高齢者や障害を持つ人が、安心して暮らせる社会は誰もが暮らしやすい社会です。全ての世代の人々がそれぞれに未来を信じられる社会を作ります。

## 中川ひろじの政策

### 「差別のない安心して暮らせる信州」

高齢者や障害を持つ人が、安心して暮らせる社会は誰もが暮らしやすい社会です。

成年後見制度の適切な運用を図ります。当事者本位の政策を展開します。

若者が未来を信じられる社会をつくりまします。

<成年後見制度の欠格条項>成年後見制度には「現在の法律では、成年後見制度を利用すると、希望する仕事に就けなかったり、仕事を辞めさせられたりする」条項があります。昨年の国会に欠格条項全廃を求めた法案がだされたものの、審議未了でおわっているようです。詳細は改めて現在の状況を調べてお知らせいたします。

